○ 運動会 ～ たくさんの方々と築いた感動 ～

６月８日（日）、第５２回運動会が開催されました。リオデジャネイロ日本人学校児童生徒数は１１名（小学部７名・中学部４名）ですが、保護者・商工会員・モデル校生徒・連邦大学生・州立大学生など参加者合計は１００名でした。１１人の子どもたちのために、こんなにもたくさん方々が一緒になって交流できることは本当にありがたく、子どもたちが育つ最高の環境です。

ラジオ体操に始まり、畳リレー・玉入れ・大玉送り・スプーンリレーなど、定番の全員参加型競技では、紅白に分かれてそれぞれのチームごとに大歓声で盛り上がり、お互いに声をかけ合う姿が素敵でした。子どもたちの競技でも、その勢いのまま大きな声援を送り、子どもたちも競技に力が入ります。勝った・負けたは時の運でもありますが、悔し涙が流れることもあり、少人数でもこれだけの運動会ができることに感動です。

一番注目の演技は、サンバ披露でした。毎年、子どもたちが何かしらの演舞を披露しますが、昨年度の３月、サンバの指導に来てくださった工藤めぐみさんに運動会でのサンバ振付をすでにお願いしていました。曲は音楽講師の熊本尚美先生にAquarela do Brasilを選曲していただき、体育の土屋先生が５月１０日にon-lineで工藤さんからレクチャーを受けたあと練習が始まりました。

今回は日系の子どもたち８人も参加することから、合わせる時間はあまりとれませんでしたが、一生懸命練習した成果が発揮され、見事に踊り切ることができました。

会場の雰囲気が何より良く、全員の手拍子と学生さんらのはやし立てる声がリオらしい雰囲気を作り、ノリノリの笑顔で踊れました。

この瞬間を記憶にとどめ、支えられていることに感謝し、これからの人生の大きな柱として成長の糧にしてほしいと思います。

○ 佳子内親王殿下ご訪問～サンバ披露への道～

６月１３日（金）、佳子内親王殿下が日系協会に来られました。日伯国交樹立１３０年を記念し、日系の方々の労をねぎらうためのご訪問です。式典の開会にあたり、歓迎行事にリオ日学の子どもたちと日系の子どもたちが合同のサンバを披露する貴重な機会をいただきました。子どもたちはとびきりの笑顔と会場の皆さんの温かい拍手に包まれ、息の合った素晴らしい踊りを披露することができました。佳子様から お言葉をいただき、一人一人と握手をしてくださり最高の思い出となりました。

５月１２日に初めて土屋先生から曲と踊りの紹介があり、そこから位置決め・パート練習・ミーティングを積み重ねました。５月３０日に衣装が完成して初めてＴシャツとスカート（女子）を履いて踊りました。指先やつま先、手をあげる角度、ステップなど、先生方が個別にアドバイスをして踊りを修正しました。６月１０日、その日が近づく練習で、土屋先生からと工藤さんのメッセージと共に意思統一のミーティングをしました。当日の朝、会場となる体育館をみんなで床の雑巾がけをして、１００人のお客さんが座るイスのひとつひとつを水拭きしました。午後の授業が終わって、控室の音楽室に荷物を置いた後、日系の子どもたちも集まって、セッティングが整った会場で最後のリハーサルをしました。ここまでできれば何の不安もなく、本番も完璧な踊りでした。

全てが終わり、記念写真撮影を待つまでの間、音楽室を覗くと、リオ日学の子どもたちと日系の子どもたちは仲良く七夕の短冊を書いたり、UNOで遊んだり、工藤さんへ感謝のビデオレター録画をしたり、これこそ日伯がひとつになった瞬間でした。世界の架け橋として、自信を深める素晴らしい体験となりました。